令和６年度　一年間の教育・保育に対する自己評価

ゆたか第二保育園

たんぽぽ組
一対一での関わりを大切にし、遊具からの転倒や誤飲のないように注意を払い保育を行ってきた。食事やトイレトレーニングではとても成長を感じることができた。複数担任であるため子どもの情報等をこまめに伝達することが大切だと改めて実感した。

ちゅうりっぷ組
個人差に配慮できるように心掛けて保育を行うようにした。着脱や食事もその子のペースに合わせて見守ったり、援助を行うことができたが玩具の取り合いなどではその場にあった声掛けが難しいと感じた一年間であった。

ばら組
月齢差があるクラスだったが、声掛けや援助を行い、登園準備、手洗い、着替えなどの生活習慣を身につけ、一人で行う事ができる様になった。友達同士の関わりが増えると自分の思いが上手く伝えられずにトラブルになる事もあったが、保育教諭が話を聞き、仲立ちをすることで友達と仲良く過ごすことができた。

ゆり組
朝の支度や衣服の着脱、手洗いうがいなど進んで行う事ができていたがペースがゆっくりな子が多かった為、声掛けや時間設定を行った。その為、時計を意識して行動するようになり、時間内に済ませられるようになった。感じたことや自分の要求を自分なりに保育教諭に伝えることはできたが、友達に思いを伝えることが難しく、保育教諭に伝えてくる事が多くあった。仲立ちをし伝える事で、仲良く楽しんで遊んだり、生活を送ることができた。

さくら組
身の回りの支度、所持品の始末に時間がかかってしまう子が多かったが、段々と早くできるようになり、行えたことも褒めていくと、意欲が出ているようだった。集団遊びをあまりしていなかったが、簡単なルールで全員が分かるように進めていくと、戸外遊びで集団遊びができるようになり、一人ひとりが楽しんでいるようであった。少しずつルールを変えていっても理解ができるようになり、年明けから年長児とも遊べるようになり、成長を感じた。

すみれ組
身支度はほとんど自立して行うことができ、一年を通して相手に自分の思いを伝えたり相手の思いを受けとめられるようになった。トラブルもあったが、子どもたちだけで解決しようと考える姿もみられた。